

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 たばこ試験場

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	多彩な農業の展開 品目別生産の展開 先端技術等を利用した 高度な技術の開発	葉たばこ高品質安定 生産技術の確立	生育診断、収量予測 技術の開発	客観的で精度の高い(実収量との誤差2.5%範囲)生育診断・収量予測技術を開発する。	回帰分析を検討したところ、部分最小自乗回帰による推定が最も精度が高かった。収量構成要素による収量推定と気象情報と生育情報による収量推定から簡易生育診断としてまとめた。	13	17	B	客観性があり、精度が高い診断手法を確立することができたことから、研究成果は目的を概ね達成した。	妥当な評価
2	先端技術等を利用した 高度な技術の開発 持続性の高い生産方式の 推進	葉たばこ栽培における 総合病害虫管理技術の 確立	立枯病総合管理技術の 開発	葉たばこにおける主要病害虫の発生生態を解明し、化学農薬の使用を最小限にして、環境負荷の少ない立枯病の総合病害虫管理技術を開発する。	アブラムシの飛来予測法の開発を行った。土壌から低密度の立枯病菌を選択培地とPCRを組み合わせた高感度で検出する技術の開発。立枯病抑制資材について有効性の検討、化学農薬を減らし、環境に配慮した病害虫の総合管理技術の開発を行った。	13	17	C	選択培地とPCRを組み合わせた手法により低レベルのほ場から立枯病菌を高感度に検出する技術は開発できた。しかし、立枯病菌密度別防除法の開発ができなかったことから、研究成果は目的を部分的に達成した。	妥当な評価
3	多彩な農業の展開 先端技術等を利用した 高度な技術の開発 持続性の高い生産方式の 推進	環境保全型葉たばこ 栽培技術の確立	生分解性マルチを利用した 栽培法の確立	1 生分解性フィルム展張下のタバコの生育と収量品質を明らかにし、同資材の普及に資する。 2 フィルム回収に要する労働性を計り、フィルムの分解経過を明確にする。 3 環境経済(外部不経済)的視点から生分解性フィルムの利便を理解し、環境負荷の少ない農業の一	1 生分解性フィルム展張上の資材特性を明らかにした。 2 生分解性フィルム展張下のタバコの生育、収量品質及び雑草の発生を明らかにした。 3 栽培マニュアルを作成した。	13	17	A	生分解性フィルムの導入は、約30ha(22%)となり、環境保全型農業の推進に寄与できることから、研究成果は目的を十分に達成した。	妥当な評価
4	多彩な農業の展開 先端技術等を利用した 高度な技術の開発 持続性の高い生産方式の 推進	環境保全型葉たばこ 栽培技術の確立	土地保全型栽培技術の 確立	禾本科作物、残幹、堆肥、NCS(カーバム剤)を連年処理することによって、ほ場管理法を確立する。	1 微生物活性と生育及び立枯病の罹病との関係を明らかにした。 2 NCS(カーバム剤)によって立枯病の軽減、施肥の削減が可能であった。 3 禾本科作物によって土壌流亡を削減した。	14	17	C	残幹は土壌硬度を膨軟にし、禾本科作物は土壌流亡を軽減させ、NCSは微生物活性を高めたが、それらを組み合わせた立証はできなかったことから、研究成果は目的を部分的に達成した。	貴重な研究成果を得たと考える。
5	多彩な農業の展開 品目別生産の展開 先端技術等を利用した 高度な技術の開発	葉たばこの大規模栽培 技術と経営安定化 体系の確立	葉たばこの大規模栽培 技術と経営安定化 体系の確立	1 肥効調節型肥料の育苗時施用により施肥の省力を図る。 2 新規わき芽抑制剤によりわき芽除去作業の省力を図る。 3 簡易乾燥装置により乾燥作業の省力を図る。 4 経営管理ソフトを作成し経営改善に資する。	1 肥効調節型肥料を育苗ポットに全量施用することによって、育苗期の追肥削減及び施肥量の減少を可能にした(再現性の向上が必要)。 2 新規わき芽抑制剤は1.4倍希釈、1回散布、15m/株の体系で旧薬剤と同等に抑制できる。 3 簡易乾燥装置による乾燥ハウスの温湿度と品質との関係を明らかにした。 4 経営管理ソフトを作成して、たばこ耕作農家の経営改善に寄与した。	13	17	B	開発した技術は農家現場で利活用されており、研究成果は目的を達成した。	非常に貴重な研究成果を得たと考える。
6	立地条件を生かした 農業の振興	葉たばこと新作物の 組合せによる中山間 地域(阿武隈山間)農 業の確立	中山間地域に適した 新作目栽培技術の確 立	県で育成したリンドウの新品種は阿武隈山間地域での栽培適性が高く収益性も高いため、葉たばこと組み合わせた栽培技術を開発して農家経営の安定化に寄与する。	地域適応性試験ではふくしまかれん以降の新品種の阿武隈山間地域での栽培適応に関する検討を行った。阿武隈の半促成栽培法ではふくしまやか・ふくしまみやびの半促成栽培法について検討した。阿武隈山間地域でのふくしまかれんの開花予測法を確立した。	13	17	A	地域適応性試験によりリンドウの新品種育成支援及び阿武隈中山間地での作型開発技術を確立したことから、研究成果は目的を十分に達成した。	非常に貴重な研究成果を得たと考える。